

1. 概要
2. 調査と試行内容
3. 今後の方針案
4. まとめ

卒業研究進捗報告

saikinn tennkiga waruine

山本 藤也 (Touya Yamamoto)

u220067@st.pu-toyama.ac.jp

富山県立大学 情報システム工学科

May 20, 2025

- 1. 概要
- 2. 調査と試行内容
- 3. 今後の方計案
- 4. まとめ

目的

- 学生の履修選択を支援するシステムの開発
- 過去の先輩の就職先・成績データに基づく履修指標提示機能の追加を目指す

アプローチ

- 滝沢研究の既存プログラムの再現と利用

やったこと1：ログインエラーの調査

3/7

試行と考察

- エラー文をもとに原因を推定
→ StudentData.db には 2017～2019 年の学生・科目データのみ
- 自身の学籍番号（2220067）は範囲外と推測

結果

- 範囲内の学籍番号で試してもログイン不可

やったこと 2 : StudentData.db の解析

4/7

- 1. 概要
- 2. 調査と試行内容
- 3. 今後の方針案
- 4. まとめ

StudentData.db の確認

- DB 内の情報を CSV に変換して調査

結果

- 含まれていたのは学籍番号と履修状況のみ
- ログイン処理に関する情報は確認できず

方針 1：滝沢研究を継続

5/7

実施内容

- DB を CSV に変換し、全体のプログラムに適応
- データを 2025 年まで拡張し、現行学生に対応

課題

- プログラム全体の理解と DB 操作の習熟が不可欠
- 科目構成やカリキュラムの変化への対応が必要
- 作業量が多く、技術的ハードルが高い

方針 2：中市研究での継続

6/7

内容の変更

- 対象が高校生以下のため、「就職先→進学先」に変更
- 「過去の先輩の進学先に基づく学習進捗の指標提示機能」として卒業研究にする

利点と見通し

- AI によるサンプルデータ生成でデータ問題に対応可能
- 科目構成の大きな変化が少なく、データ処理が容易
- 中市研究の構造を既に把握しており、実装の現実性が高い

1. 概要
2. 調査と試行内容
3. 今後の方針案
4. まとめ

現状の整理

- 滝沢研究の活用には構造理解や拡張処理が必要
- 中市研究をベースにする方が、構築の現実性が高い

今後の方針

- 滝沢研究に固執する理由が特になければ、中市研究に「進学先と成績に基づく学習進捗の指標提示機能」を追加